

特定非営利活動法人 かさおか島づくり海社

岡山県笠岡市

【活動概要・効果】

☆島のことは島民が自ら考え、自ら解決する

○「特定非営利活動法人かさおか島づくり海社」が、島の産物を使ったお弁当「しまべん」の開発、空き家対策事業、通所介護事業所の運営、特産品販売所の開設などを行い、海援隊（行政）との協働により、地域の課題を住民が主体的に解決できるよう活動している。

☆「しまべん」の開発により、メディアで取り上げられる回数が増え、全国的にも知名度を持つ特産品となり、笠岡諸島のイメージアップにつながっている。空き家対策事業は、直接的な人口増加策にとどまらず、島にとけ込み、島に必要な人材に定住してもらえるようにし、高齢化により後継者不足に悩む離島での継続的な事業展開を目指している。（平成19年9月現在、19世帯43名が移住。）

☆各事業においては、行政組織である「海援隊」と市民との協働により課題に取り組んでおり、お互いの信頼のもと、さらに連携を強めている。



アンテナショップゆめポート

《人員確保での工夫・苦労》

限られた人口の中で、事業を行う際の資格を持っている人材を捜すのに苦労している。特に介護保険事業。現在も常勤職員を募集中。

一方で、島の空き家対策事業で移住者を募集しているが、問い合わせも多く、地元で必要とする人材を選考できる。例えば、「しまべん」では作り手の確保が課題であった頃、寿司職人の移住希望者があり、移住者の職の確保と地元の事業がうまくマッチングした例である。

《活動資金確保での工夫・苦労》

現在は、市の委託事業や補助金、介護保険事業による収入が多い。市の補助金や委託料はいつ打ち切られるかかもしれず、独自財源の確保が課題となっている。

そこで、陸側にアンテナショップを平成19年9月にオープンしているが、いまだ独自財源を確保するまでには至っていない。観光開発や特産品開発も手がけているが、成果を上げるにはもう少し時間がかかりそうである。

【現場の声】

仕事の片手間にやっていたのでは間に合わないし、続かない。そこで、活動に専属の職員を作ることを目標とし、一昨年NPO法人人格を取得、市の委託事業や介護保険事業などを行うことで人件費を確保した。来年度は、企画・運営部門にもう1名職員を確保予定。職員は島内の住民で確保し、雇用の場ともなっている。

しかしながら、高齢化率が50%を超える地域の中で、事業の担い手確保に苦労している。また、7つの有人島がまとまって活動するための意志決定や協議のための会議についても、島という地理的な特殊性から時間と経費がかかっている。

～特定非営利活動法人かさおか島づくり海社
鳴本 浩二さん



島の大運動会